国 語 科 学 習 指 導 案

日　時　平成16年9月30日（木）5校時
学　級　２年Ａ組
　　　　男子４名、女子８名、計１２名
場　所　２年Ａ組教室
授業者　菊池　一英

1　単元名
　　四　古典を楽しむ　「扇の的」

2　単元について
　一年生では、「竹取物語」と「矛盾」という文章との出会いを通して、古典とはどういうものかを知る学習をしてきた。竹取物語は原文の長さも短く、「かぐや姫の物語」としての、生徒にとっては親しみやすい作品であった。
　二年生の古典は、原文中心に教材が構成されており、古文や漢文の表現から古人の心に触れることで古典を楽しむ学習を目指している。また、ストーリーとしての楽しさだけではなく、深いテーマを含んだ作品が教材として位置づけられている。
「平家物語」は琵琶法師によって語られた。つまり、文章を目で読んだのではなく耳で音を聞いたわけである。したがって、文章は読みやすく聞きやすく心地の良いものでなくてはならない。まさしく音読・朗読に適した古文として、「読むこと」の教材には打ってつけの教材といえる。教材は平家物語から「扇の的」の場面であるが、そこに入るまでの平家物語のあらすじがまず現代文で書かれてある。古文は、那須与一が扇の的を射る場面である。その場の情景が、漢文調の心地よいリズムによって目の前で起こっているように伝わってくる。音読や朗読を通して、その平家物語の文体の工夫やリズムを楽しませたいと考える。

3　生徒の実態及び指導について
　１２名という少人数学級ではあるが、馴れ合いの雰囲気はなく、互いの学習に関心を寄せながら自分の学力を高めようとする意欲が強い。したがって学習への取り組みも積極的であり、また家庭学習もきちんと習慣化されており、各種学力調査に視られる結果もかなり高い。
　ただ、音読に限って言えば、人前でしっかりした声で堂々と音読できる、というところまでは至っていない。声に出してしっかり読むということに、照れや恥ずかしさが見られる。学習意欲も学力も高い方であるにもかかわらず、人前で自分を主張することに対しての積極的な姿勢や自信に欠ける場面が見られる。学級経営にもかかわって、この姿勢を直していきたいとも考えている。
　本教材では、音読を繰り返しさせることによって、平家物語の原文のもつリズムや文体の工夫に気づかせ、声に出して読むことの楽しさを味わわせながら、本時は特に「読むこと」の確かな定着を図る指導を行っていきたいと考える。

4　単元の目標
(1)　古典の中に描かれている古人の生き方やものの見方・考え方を感じ取ろうとすることができる。
［関心・意欲・態度］
(2)　仮名遣いや古典に特有の言葉、語形を学習し、古典の特徴を生かして原文を朗読することができる。
［読むこと］
(3)　文章の意味内容を理解し、描かれている情景や作者の考え方・感じ方を読み取ることができるとともに、自分の考え方・感じ方を文章にまとめることができる。［読むこと］
(4)　古典の中に出てくる特有の言葉の語感を磨くとともに、語彙を豊かにすること。［言語事項］

5　指導計画
(1)　扇の的　…………４時間（本時２／４）
(2)　思いをつづる　…………３時間
(3)　漢詩の風景　…………３時間

6　本時の指導

(1)　本時の目標

①　「扇の的」の原文をすらすらと音読することができる。

②　原文の内容や文体・リズムをつかんで朗読することができる。

(2)　本時の評価規準

観　点	評価規準	具体の評価規準			評価方法
		十分満足できる	おおむね満足できる	支援の手立て	
関心・意欲・態度	平家物語の原文に興味をもち、積極的に学習に取り組んでいる。	原文の内容や文体・リズムに興味を持って積極的に読もうとしている。	原文と口語訳を交互に見比べながら文章を読もうとしている。	口語訳を中心に読ませ、その内容と音読を通して原文に関心を持たせる。	ノート プリント 発表 音読・朗読
読むこと	原文の内容や文体・リズムを朗読に生かそうとしている。	原文の内容、文体や言葉のリズム感をつかみ、朗読している。	歴史的仮名遣いに注意して、原文を音読している。	範読や一斉読などの音読を通して何度も練習させる。	音読・朗読 発表

(3)　本時の展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1　原文の黙読 学習課題提示 【扇の的の原文を朗読する】 評価の確認	1　原文を黙読する 朗読とは何かを確認する	教科書 P162 の原文 ［読む①］ 音読と朗読の違い、プリント
展開 35分	2　原文の音読 3　口語訳の音読と内容理解 4　原文の内容理解 5　原文の特徴把握	2　原文を音読する 3　口語訳を黙読する 口語訳を音読する 内容の概略を理解する 4　原文と口語訳を交互に音読する 原文の内容を理解する 5　原文の文体やリズムの特徴をとらえる	範読の後、一斉読 句読点や主述の意識 ［読む②］ ［読む③］ プリント（虫食い）確認① ペアで交互に音読 句読点や主述の意識 ［読む④］ プリント（虫食い）確認② 古語、対句、助詞の省略等
終結 10分	6　原文の朗読 相互評価	6　原文を朗読する 評価プリント記入、発表	数名、一斉 ［読む⑤］ 肯定的評価

(4)　評価の観点

①　「扇の的」の原文をすらすらと音読することができたか。

②　原文の内容や文体・リズムをつかんで朗読することができたか。